

第二回 防災担当トレーニングシステム作成のための検討会 実施概要

(1) 開催日時・場所

日時 平成 21 年 3 月 23 日 (月) 13 : 00~15 : 00

場所 中央合同庁舎 5 号館 3 階 特別会議室

(2) 主な議事事項

- ① 前回の検討会における議論の反映について
- ② 内閣府防災担当における PDCA サイクルのあり方について
- ③ 年間計画とスタートダッシュプログラムについて

(3) 議事概要

事務局より、前回の検討会における議論の反映について、また、内閣府防災担当における PDCA サイクルのあり方等の説明を行った後、各委員にご議論いただいた。

<主な意見>

- 災害対応に向けた取り組み、マニュアルの作成などについて、毎年そのレベルを落とさずに継続、維持するためには、訓練をきちんと実施することがその方法としてあげられる。
- 機能訓練は、状況をうまく与えることができるかどうか問われる。これまでは、発災直後の情報処理訓練が中心だが、状況をさまざまな仕方で出来るように改善することで、狙いたい時間やシチュエーションで訓練することができる。
- 今までのマニュアルの多くはオペレーション型で、マネジメント型ではなかった。「どういう風に組織をまわすか」というマネジメントの部分は、訓練を行う余地がたくさん残っている。
- マニュアルを作るということも訓練になる。担当者一人が作るのではなくて、皆で作ることが訓練となる。
- 宮城県沖地震のような、確度が高く 100 万近い人口を包含している都市を対象とする地震時の対応シナリオも視野に入れ、政府対応の目標を設定し、訓練するなどあってもよいのではないか。
- 計画やマニュアルの標準化をすすめる手法については、WBS (Work Breakdown Structure) や BFD (Business Flow Diagram) がその手法の一つとしてあげられる。
- 業務は、階層化した仕事として表現できるが、この階層性を考慮して整理したものが WBS で、業務の流れ、つまり「情報の流れ」「必要とされる資源量」「ノウハウ」「制約」を可視化した標準的な業務パッケージの作成手法が BFD である。
- 業務の階層化を行う上では、上位のまとめり仕事に検討をつけることが重要で、ここを外さないというのが大切である。
- 具体的な業務内容を明らかにし、調整方法を整理するのに、WBS の要素が組み込めるともう少し体系的にできる。重点課題や重点項目については、業務を分解する必要がある。
- 企画運営能力は、振り返りをしっかりやり、振り返りの中に出てきた色々な種

を、丁寧に次に生かすようにすることで、常に改善できるのではないか。

- 実災害や訓練の効果的な検証手法は振り返りになるのではないか。関係者の間での振り返り、ワークショップのような形になるのではないか。あとは、災害対応エスノグラフィーの作成やWBS化なども使えるのではないか。
- 検証は、「検証したいこと」が明確になっていれば、どんな方法でもできる。何を明確にしたいのか、それにそって振り返りがきっちりできているか、どれだけたくさんの改善点を言ってもらえたかが検証になる。
- アフターアクションレポートは、実災害への対応記録と位置づけ、訓練のアフターアクションは振り返りでよいのではないか。
- Check、Actの活動には、執行部の関与によるマネジメントレビューがとても重要である。1年に1回でもいいから執行部が要所で必ずプロセスの推進に関わらないといけない。そこで初めて、改善が実現する。
- Actは、業務フローを明らかにし、マニュアル化して改善していくのでいいのではないか。
- 全体としての改善活動というのは、マネジメントレビュー的なものでよい。
- 全体としての大きなPDCAの中で、小さな研修や訓練のPDCAが少しずつ重なり合いながら回っているのがいいのではないか。